

## 6m and down 顛末記2020

JM1LZT 富山俊一

今年はコロナ禍で世界中が大きく揺れ、趣味の無線どころではない日々がいまだに続いています。4月のALL JA コンテストはマルチオペ部門が「密を避ける」ため取りやめになり、移動運用も憚られるような状況でした。緊急事態宣言が解除された後でも、世の中の空気は自粛ムードであり、7月の6m and down コンテストも実質的には移動運用、マルチオペともに無しなのだろうと思っていました、6月18日までは。

ご記憶の方もいらっしゃるかと思いますが、JARL から「今年後半のコンテストはすべて予定通り行う」旨の発表が6月19日にあり、慌てたのはもちろんです。「うれしい誤算」ともいえるこの発表は、私の無線生活に、予想だにできなかった結果をもたらしました。やるなら当然個人参加が前提なわけですが、実際には、大学の無線部での活動以来なんと30数年ぶりにマルチオペレーター部門にエントリーすることになりました。

この発端は、若かりし頃、ともにDXを追いかけていた無線の友人との久々の出会い。これが無線を通じてならよくある話なわけですが、実際にはFacebookを通じて

というところが、良くも悪くも 21 世紀。2019 年の秋ぐらいから交流を再開し、あっという間に 30 数年のブランクを感じさせない大盛り上がり。彼は DXCC をオーナーロールまで上りつめ、今は IOTA と国内コンテストに情熱を傾ける「現役の」無線家になっていました。移動運用とコンテスト参加に多くの時間を割いている私とは接点ありまくりです。

（本当は DX も共有できると最高なのですが・・・）「そのうち一緒に移動してコンテストやろうね」というやりとりは当然でした。しかし、まさかこんな形でそれが実現するとは・・・

当初、ALL JA で一緒にやるという案がありました。彼のホームグラウンドである栃木または私が最近目をつけている千葉辺りで。しかし、みなさんご存知の通り、コロナ問題で根本的に移動が不可に。いろいろ悩みましたが、「じゃあ自宅に 7 MHz のダイポールを臨時に張って CW エントリーしよう」ということに。私は C7M、彼は C7P と決め、コンテスト直前に二人そろって自宅に「一夜城」を設営。コンテスト中も現状報告を交わし励ましあいながら何とか完走。彼の提案で QSL カードも一緒に作ったりしたのが 4 月の終わりの話です。

その後、「今年の 6m and down の開催、どうなるんだろうねえ」と二人して情報収集、分析、想像、妄想を繰り返していたわけですが、「たぶん ALL JA と同じようにマルチオペ無し、移動自粛だよ」と見ていました。実はこの友人、この 20 年ほど毎年欠かさず 6D とフィールドデーは日光に移動して参加し続けており、コロナという不可抗力的原因とはいえ「歴史が絶たれる」ことをとても残念がっていました。しかもその参加形態は大学の無線部 OB 会のメンバーによるもの。JA1ZCX 宇都宮大学アマチュア無線研究クラブは第 1 回の 6D から何らかの形で 50 年参加し続けており、何度も全国優勝、入賞をしたことのある伝統あるチームです。ただやはり昨今のアマチュア無線界の状況を反映し現役生の活動は低下。見かねた友人が OB に声をかけ、この 20 年ずっとやり続け現在に至っているようです。

そして 6 月 19 日、冒頭の発表が。あきらめムードから一変し。彼が「いつものメンバー」に声をかけまくったのは言うまでもありません。しかしながら多くの方が「心と日程の準備」が十分ではなかったようで、まさかの人手不足のピンチに。話を聞いた当初「助っ人やるかな」とチラツとは思いましたが、やはり「自分の結果」が欲しい身ゆえ、なかなか

か決断できずにいたのは今だから言えることです。しかしそんな私の背中を大きく押したのが「たとえ自分一人でも移動して参加する」という彼の言葉。私の負けです。伝統の維持、継続にかける彼の情熱の強さは私のちっぽけなエゴを吹き飛ばしチームプレイヤーとしての参加を私に決断させました。

そうと決まれば話は早い。連日メッセージで連絡を取り合い、日程の調整、機材の調達、整備と実質 2 週間でなんとかしちやいました。助っ人以外に私に出来ることがあるとすれば人の調達。私の大学時代からの友人で、私同様「カムバックハム」として最近コンテストにアクティブな友人を誘ったところ一発 OK。私と友人、何とかふたつの「猫の手」を供給出来ることになりました。

そうして迎えた 7 月 4 日の朝。日光半月山に予定通り 9 時に到着。もう一人の猫の手の友人は横浜からですがすでに到着しており、小雨だか霧だか、はたまた雲の中だかで、久々の挨拶を交わしているところに「首謀者」の友人が到着。30 数年ぶりの友人はすっかりオトナな容貌に(^^; まっ、私も同じですが・・・ その後もぼつぼつと

ほかのメンバーの方々も到着し、いよいよ設営開始。心配していた天気も、10 時過ぎ  
ぐらいには雨も上がり、時間帯によっては晴れ間まで♪

監督である私の友人からの的確な指示と、それを実に効率的に実行していくチーム  
のみなさんの動きに「伝統ある強豪チーム」の底力を感じたのは言うまでもありません。

昼食を挟み 16 時ぐらいにはほぼ設営完了。メンバーの方々とお話していると、  
「無線は大好きだけど無線だけじゃない」人としての厚みのようなものが感じられ、240  
の諸兄に通じる魅力を感じました。

今回、友人からは人手不足につき 50MH z は「業務委託」され、原則 18 時間私  
がやることに。望むところですが、責任重大です。各バンドに目標が示され、50MH z  
は「600QSO 40 マルチ」☆なかなか重たい数字です。マルチオペとはいえ、実質的に  
シングルオペと同じです。すべての結果が良くても悪くても私のせい。気を引き締めたの  
は言うまでもありません。



去年は原則 CW でしかコンテストをやっていませんでしたが、今回は当然 SSB も。フ  
ォーンもやるのは多摩川コンテスト以来です。スタートはまず SSB で CQ 連発。さすがに  
地の利（標高約 1600m）でガンガン呼ばれます。しかし調子よく 30 分ぐらい捌いた  
ところで大変なことに気づいてしまいました。出ている周波数が 50.314MHz。そう、  
FT8 の周波数だったんです。もちろん慌てて QSY しましたが、これは本当に申し訳ない  
ことをしてしまったと反省しています。コンテストなど関係なしに FT8 を楽しまれている方  
に対しての迷惑はもちろん、JA1ZCX の対外的な評判に泥を塗る結果になってしま  
いました。

それでもその後順調に SSB/CW を行ったり来たりしながら QSO を伸ばすことができたが、好事魔多し。午前 1 時ぐらいに強烈な睡魔が。原則として 18 時間不眠で（不休ではありませんが）やる予定だったのに・・・

結局 4 時ごろに目覚め再開しましたが、覆水盆に返らず。夜中～早朝は局数は少ないとはいえ、マルチの稼ぎ時です。この「抜け」が結局最後まで大きく結果に響くことになってしまいました。

そこからは本当に猛烈な勢いで、局数を稼ぎ、マルチを探しの繰り返し。Es やスキッターの発生にも細心の注意を払っていましたが、なかなかマルチが伸びません。

途中 JJ1SXA,JA1WOB 各局とも交信いただき、JA1RIZ 久保田さんとは事前に 1.2GHz 以上のスケジュール（？）QSO をお願いし、わざわざ連絡をとりながら QSO していただきました。各局本当にありがとうございました。

日曜 15 時。終戦です。結局有効 QSO550 21 マルチと、監督から示された目標には全く届かず、チームの足引っ張りになってしまったのではと思います。助っ人失格。

昨年に続き、様々な課題の残る6Dでした。特にチームプレイヤーとしてやる面白さ、難しさは実に貴重な経験でした。今後はまた、シングルオペとして各種コンテストにエントリーすることになるかと思いますが、必ずや今回の経験を活かしたいと思っています。

最後になりますが、今回の貴重な場を与えてくれた私の古くからの友人に、心から感謝したいと思います。

